

井の国歴史懇話会報

VOL. 2

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成 25 年 4 月 22 日



山吹→

←誕生仏



龍潭寺の桜→

花祭り

今年の冬は殊の外厳しい寒さが続きました。北国では豪雪に見舞われ、痛ましい事故も報道されました。春の訪れを心待ちにしている毎日でしたが、3月も半ばを過ぎると春は一気にその歩みを早め、4月を待たずに桜が満開を迎えました。

桜の下に来ると足を止め、シャッターを切り、桜を愛でる姿を見かけます。桜に囲まれると誰も笑顔になり、心優しくなるようです。夜桜の下で杯を傾け、うつつを抜かず人も多くなり、日本人は桜に酔いしれてしまうこの季節です。

桜咲く日本の4月は花祭り。遥か古代のインドの4月8日は釈迦の誕生日。桜やヤマブキの咲く龍潭寺でも釈迦の誕生を祝う、花祭りが行われていました。様々な草花で飾った花御堂(はなみどう)を作り、その中に灌仏桶を置き、甘茶を満たし、誕生仏の像をその中央に安置し、柄杓で像に甘茶をかけて祝っていました。檀家の方々と法要の後、ご詠歌が奏上され、一時

の華やぎに満ちていました。客殿に座を移して、大本山妙心寺の



説教師による法話もあり、日柄一日「花祭り」に包まれた花の寺そのものでした。

俗に言う「花まつり」の名称は、明治時代にグレゴリオ暦が導入され、灌仏会の日付の読み替えが行われた後の4月8日が、関東地方以西で桜が満開になる頃である事から、浄土真宗の僧・安藤嶺丸が提唱したといわれています。それ以来、宗派を問わず灌仏会の代名詞として用いられています。

久しぶりに甘茶と「あまちゃあめ」をいただき、花祭りを満喫することができました。

来年度の井の国懇話会の例会の後、花祭りに同席させていただいたら、一層意義が高まると思いました。

講話

地域から見た家康の遠州入り

前徳川記念財団研究員

前日本学術振興会特別研究員東京都足立区立郷土博物館専門員



夏目琢史先生 浜松市北区引佐町田沢出身

三河を手中に治め、遠州入りを目指していた家康の前に立ちはだかる三遠の国境。険しい山並みと共に敵対する武将の数々に、峠の道は険しかった。その手引きをした「井伊谷三人衆」の活躍と浜名湖岸の今川勢の武将との壮絶な戦い。三方原合戦を経て、全国制覇を遂げる家康の活躍の端緒はこの遠州入りにあった。

第1回講話

「朝鮮通信使」と家康・龍潭寺について

講師 澤田ひろ子

1 朝鮮通信使とは

朝鮮通信使は、足利・豊臣・徳川の武家政権に対して朝鮮国王が国書を携え、派遣した外交使節団のことです。その「通信」の意味するものは「よしみ・信頼・信義を通わせる」で「通商」の国(オランダ・清)とは一線を画していました。

2 家康と通信使

征夷大將軍となった家康は、秀吉の朝鮮出兵で、断絶していた朝鮮王朝との国交を回復し、東アジアの貿易と、幕府の優位性を目指していました。

第1～3回目の使節は『回答兼刷還使』と呼ばれ、日本からの国書に回答をすることと、豊臣秀吉の朝鮮出兵で日本に連行された人たちを引き取る目的で行われました。第4回目からは日本を友好関係にある国と認めて通信使と呼ばれるようになり、將軍の就任など日本側の慶事に合わせて訪れました。

3 国を挙げての大事業

朝鮮王朝は、先の戦で負け「武の力を文で見返したい」思いもあり、国王の親書を携えた朝鮮通信使一行は、正使・副使・従事官の三使をはじめ、学者や一流の文化人や芸人たちなど総勢およそ500人の大使節団を送りました。この一行が、ソウルを出発し半年から1年近くの日数をかけて江戸までを往復しました。これだけの規模の外交使節は、江戸時代はもちろん日本の歴史上でも朝鮮通信使だけです。幕府は歓迎のためにおよそ100万両(いまの約1000億円)もの莫大な費用をかけ、庶民も準備や手伝いのために動員されたり、行列見物に出かけたりと、国を挙げての一大イベントでした。

4 龍潭寺と朝鮮通信使

関ヶ原の戦い後家康が通った街道で「凱旋街道」と呼ばれる街道を(中山道の内野洲～八幡～彦根を経由した部分)を特別に朝鮮通信使に使わせまし

た。その後は將軍の上洛の時に使った街道です。

当時一流の文化人と接したいと願った人々は、夜間宿舎に訪ね漢文で交流を図ったと言われていま

す。
東海道を離れた龍潭寺では、当時の文化人の憧れの的だった朝鮮通信使の書を手に入れたと願い、彦根まで出向き「山号額・寺号額」の書を入手しました。「金義信」の書で2点揃っているのは、通信使が通過した地域でも希有のことです。



5 最後に

朝鮮通信使は、両国の平和友好のシンボルとして、文化交流に足跡を残しました。江戸時代の日本は鎖された国だったというイメージがありますが、実は唯一正式に国交を結んでいた朝鮮とは盛んに交流をしていました。

現在残された「書」の縁で子孫の人達との交流の事を耳にします。皆一様に「先祖が書いた書を大事にしてくれて嬉しい。日本人は素晴らしい」との言を聞きます。ここ龍潭寺から文化による友好の輪が広がることを祈念します。

年間計画 (敬称略)

6月24日(月)

現地研修 「龍潭寺住職と歴史にふれる旅①」

～徳川家康公の遠州侵攻の道～

講師 柴田宏祐 仲井政弘 安形吉司

龍潭寺8時発

8月26日(月)

講話 「浜松の山城」

講師 浜松市文化財課長 佐野和夫

